

令和6年度富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議

1 日 時：令和6年11月22日（金）10:30～12:00

2 場 所：富山県民会館 6階 611号室

3 説明事項

（1）富山県からの説明

- ・ 県内経済の状況と県の取組みについて

（2）中部経済産業局、富山労働局からの説明

- ・ 国の中小企業振興施策等について

委員からの主な意見（要旨）

（1）中小企業支援施策について

- ① 会議資料には、富山県の制度が使われている、効果が出ているということが示されている。
- ② 県の色々な補助等をいただいて、省力化補助や、トランスフォーメーション補助金等の活用を促しながら対応しているが、現状、小規模事業者にとって厳しい環境が続いている。
- ③ 沢山の施策があるが、一般の経営者にとってはどれが有効な施策なのか選定が難しい。
- ④ 賃上げサポート補助金を含め、制度のPRも進めていってほしい。
- ⑤ 施策の中のプレミアム商品券について、早い段階で締め切られていたので、消費者に直接関わる施策は来年度もお願いしたい。

（2）賃上げ・価格転嫁について

- ① 価格転嫁による上げ幅がまだ足りず、売上が前年に届いていないが、価格転嫁自体は助かっている。
- ② 構造的な賃上げを目指すのは良いと思う。大企業が下請けをしている中小企業等にお金を回せば、それが中小企業の従業員の皆さんの賃金に反映され、それにより消費が上がり納税額も増えるので、お金を循環させることが構造的な賃上げの大きなポイントでないかと考えている。
- ③ 県内の中小企業も価格転嫁はできているが、値段は上がっても売上は上がっていない。
- ④ 自社では、賃上げについて、5%ほど上げた一方、売上は増加したにも関わらず、営業利益は賃上げ分、材料高で落ちている。一番考えるのは生産性の向上、適切な価格転嫁。これをどこまでやっていけるかを見極めながら、諸外国並みにまでしていきたい。

- ⑤ 賃上げについて、今年は約5%と30年ぶりの高さ。ただ、企業の規模間の格差、産業間の格差、いわゆる体力のある企業とそうでない企業との格差が広まってしまったのが実態。価格転嫁がこの物価高の中でも上手いかない点であり、ぜひパートナーシップ構築宣言の取組みをこれまで以上に推進していただきたい。
- ⑥ 消費者の視点では、アンケートの結果の中に、同業他社との価格競争が激しいとか、売上が減少することを懸念して価格転嫁をできないという回答がある。

(3) 人材確保・育成、働き方について

- ① 人材育成についても、リスキリングやキャリアアップ等は非常に要望が多いので、これからも積極的に取組んでいきたい。
- ② 同一賃金同一労働という考え方も正しいだろうが、すべての人が同じ能力ではなくそれぞれ個性や特性をもっており、それを踏まえて同一労働と定義することが、その点が企業経営においてネックにもなり強みにもなる。
- ③ 県の政策で、若者に選ばれる富山県を目指してということで、「企業の魅力発信、中高生との交流会」を実施されたが、非常に良い政策。20代の流出が大きいという現状を考えると、UターンやIターン就職の施策も大事だが、このような取組みにより、中高生との接点を広げ地元での人材確保に力を入れていくべきだと思う。
- ④ DXでは、業務プロセスを見直していくために、大きなお金をかけずに、SNSやデータベースを使い、社内活動を省力化するスタートアップなどと企業を結びつけながら、コストをかけずに業務改善につながる取組みを支援していくことが必要。
- ⑤ リスキリング補助金は生産性向上など、成長分野へのチャレンジを促すという意味で非常に良いと思う。事業展開やDX、GXに伴う新規分野がクローズアップされているが、幅広い様々な技術機能、デジタルだけではない分野の技術向上のための補助が必要ではないかと思う。
- ⑥ 女性の人材確保・育成分野について、幅広く取組んでおられるので、これを続けていただきたい。女性にも多様な方がおられることも考えながら、職場環境を整備したり強化したりしていただきたい。
- ⑦ 富山大学ではデータサイエンス教育を社会人対象にして行っている。学生と企業が一緒に課題解決をしてデータサイエンスのノウハウを学んでいただきたい。
- ⑧ 奨学金返還助成制度に関して、理系人材の確保が重要だというのは理解できるが、文理融合が進んでおり、理系文系で分けるのは古いのではないか。DXやAIも理系人材だけではなく、文系人材が底上げをしていかなければならない。
- ⑨ 大卒・院卒の高度な人材が不足している。また理系女子学生の育成について、親への啓蒙が一番ではないかと考えている。親への啓蒙を進める施策を実施してほしい。
- ⑩ 工業高校で一部定員割れをしており、中学生の段階で専門、将来をなかなか決められないという声もある。そのようなことで、中小企業に人材を供給しきれていないと思っている。